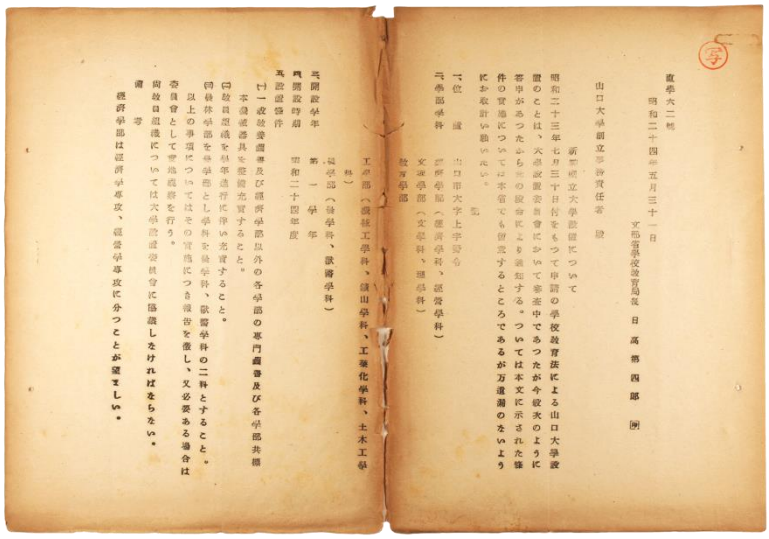
山口大学誕生

創立決定！

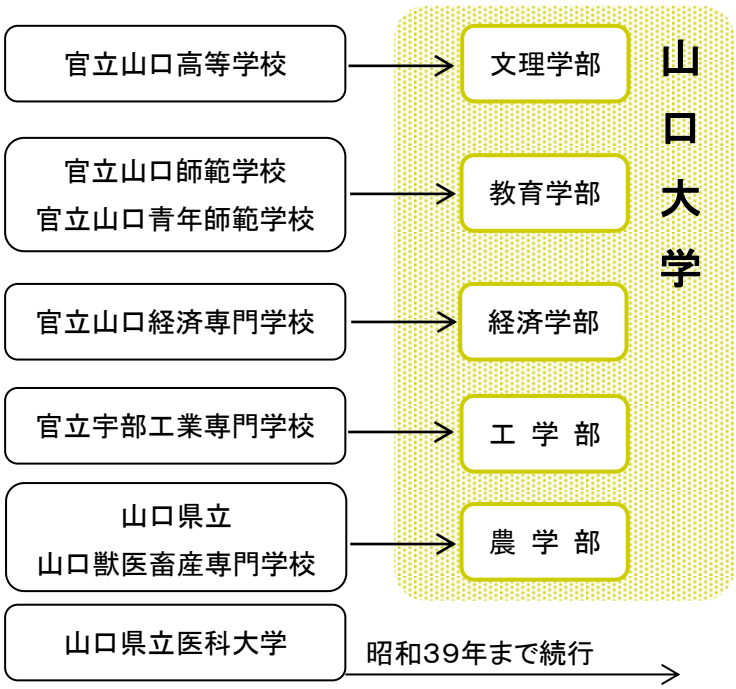
文部大臣の諮問機関である大学設置委員会より審査の正式結果が報告されたのは、昭和24（1949）年5月31日だった。この日、山口大学の設置を含む国立学校設置法が国会を通過し、文部省は省令第23号国立学校設置法施行規則を6月22日付で定め、同日から適用することとした。



文部省学校教育局長からの通知「直学62号」

条件付きではあったが、山口県の総力を挙げての新制大学設置運動はついに結実し、全国国立大学69校のうちの1校として発足したのである。

本部は経済学部に置かれた。新しく「山口大学」の門標が掲げられた亀山校舎の石門は、山口明倫館、山口高等中学校、山口高等学校、山口高等商業学校、山口経済専門学校を経て、新たな歴史を刻むこととなった。



旧高専校から学部への移行図

門標も「山口大学」へ
（「防長新聞」昭和24年6月2日より）

新制大学スタート

実質的な大学のスタートは6月1日である。学生定員は文理学部105、教育学部160、経済学部160、工学部120、農学部60の計605名で、初代学長には京都大学名誉教授松山基範が着任した。

新制大学の使命は新しい時代を担うにふさわしい教養の豊かな視野の広い日本人を育成することだった。本学の目的及び教育方針には以下のように銘記されている。

広く教養的知識を授けると共に深く文学、理学、教育学、経済学及び工学、農学に関する精深な学術を教授研究して知的道徳的及び応用的能力ある有為の人物を養成し、以て学術の進歩をはかり文化の進展に貢献することを目的とする。

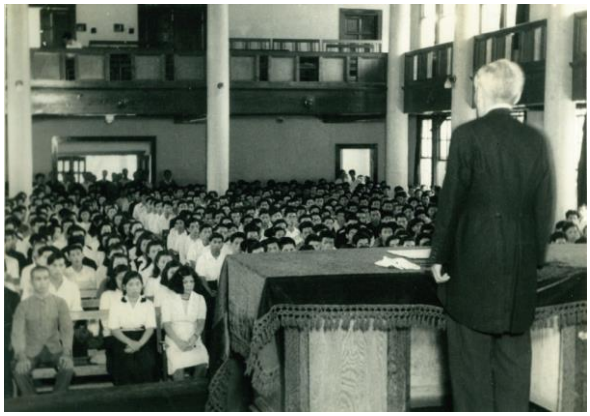
最初の入学試験は、6月8日から経済学部及び工学部が、次いで文理学部・教育学部・農学部が実施した。開学当時、学生は1学年のみ、専任教授は17名に過ぎなかったため、教授会や評議会も存在しなかった。従って、大学の運営制度が整うまでの暫定的機関として、委員長を学長とし、各学部長及び各学部教授2名から構成する山口大学運営委員会（後の評議会）を置くこととなり、その性格を学長の諮問機関と位置付けた。第1回大学運営委員会は6月14日に開催され、第1次合格者発表や2次募集等の日程のほか、入学式は7月15日に挙行すること、授業は8月22日から開始することを決定した。

第1回入学式（昭和24年7月15日）
溌剌とした女子学生が印象的

第１回入学式

大学運営委員会の方針に従って、7月15日午前11時から経済学部講堂において第1回入学式が挙行された。

松山学長は、「真理を探究し、これを応用して社会に貢献する基礎を培うとともに、人格修養の場とされたい。これがためには徒に誘惑に乗らず、盲従すること無く正当な批判眼を養うよう勉学せよ、学校行政は学長その他の合法的に認められた人々が行うべきで、学生の自由なる活動も自らある範囲を超えないようにされたい。」と訓示した。

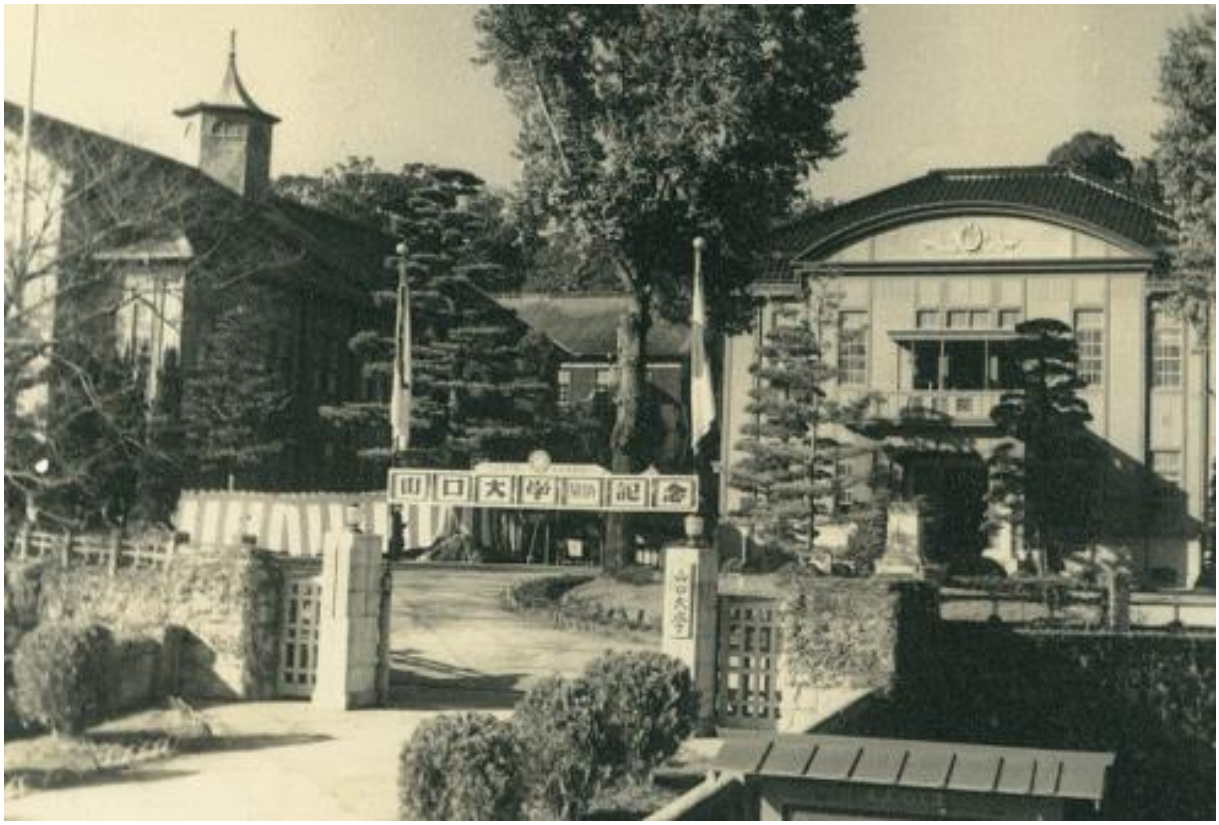


第1回入学式で告辞を述べる松山学長

開学式

開学式は、昭和24（1949）年11月5日午前10時半から経済学部講堂において、教職員約250名、来賓198名が参加して盛大に挙行された。「松山基範学長の式辞に次いで、文部大臣、ガッサー山口民事部隊長、田中県知事、山下山口市長、受田衆議院議員らの祝辞があり、最後に学生代表の言葉に答えて松山学長は学生代表を抱擁して、“君らが一番大事だ”と慈父の如き冷厳のうちにも包み切れぬ感激を吐露した、終わって吉川経済学部長の記念講演があり、午後1時半閉式した」と防長新聞は伝えている。

ちなみに、この栄誉ある学生代表は、後に本学名誉教授となった堂面春雄氏である。

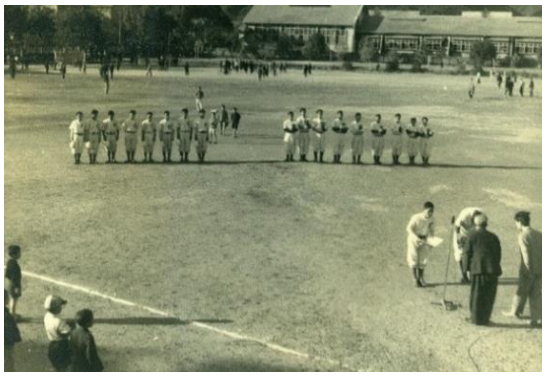


開学式当日の山口大学

田中龍夫県知事の祝辞

記念祝賀会の様子

また、開学式の前後には運動会や音楽会、対抗野球試合など盛り沢山の行事が開催され、設立に奔走された方々や多額の寄附をいただいた県民各位へ感謝の意が表された。なお、開学記念行事は翌年以降も6月と11月の年2回行われていたが、6月1日は創立記念日と定められ、後に11月にまとめて大学祭が開催されるようになり、現在に至っている。

（上・左）
開学記念運動会

（下）
開学記念野球大会
（対福岡商大）